

令和7年度 第2回 入野中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年7月17日（木） 9時30分から11時30分まで
- 2 開催場所 入野中学校 大会議室
- 3 出席委員 大塚 哲雄、田口 章、田澤 健司、御室 福二、齋藤 良夫、
幅 あけみ、内藤 明子、村上 さくら、
- 4 欠席委員 石川 和宏
- 5 オブザーバー 松下 正行（浜松市議会議員）、岩田 邦泰（浜松市議会議員）
野嶋 俊之（入野協働センター長）
- 6 学 校 池田 隆宏（校長）、高橋 知己（教頭）、
大庭 孝仁（主幹教諭・CS担当）、久保 理絵香（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 久保 理絵香
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、幅委員から田澤委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）学校運営についての経過報告
（学校の現状と課題、学校・家庭・地域でできること）
- （2）来年度の教育課程編成について
（学校行事開催について）
- （3）部活動地域展開について
（休日の部活動地域展開について）

11 会議記録

司会の高橋教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校運営についての経過報告

議長の指示により、1学期の学校の様子について池田校長から説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 校内まなびの教室の生徒は増えているのか。また、専門スキルをもった支援者がついた方がよいと思うが現状はどうか。（田口委員）
⇒専門スキルをもった人材はなかなか難しいが、教員経験のある支援員がついているケースが多い。また、多くの教員が関わり、人間関係を作りながら、学習支援につなげている。（池田校長）
- ・ 地域連携については、資源回収や防災訓練に多くの中学生に参加してほしい。行ったら褒められるという動機でよいと思う。地域の人たちの活動を見たり、一緒に活動したりする経験が大事である。災害時には中学生の力は本当に大きい。（大塚委員）
- ・ 出席の確認は、不登校生徒も毎日連絡するのか。さくら連絡網の導入でどのくらいで楽になっているのか。（岩田議員）
⇒基本的には毎日連絡してもらっている。個々の状況によって例外もあるため、その場合は職員が定期的に家庭訪問に行くなどの対応をしている。（高橋教頭）
- ・ 不審者情報がさくら連絡網ですぐに周知できることはとてもよい。（大塚委員）
- ・ いりの教室の子供たちについては、できるだけ自己肯定感を失わないように支援してあげてほしい。自己肯定感が低いとコミュニケーション能力が低くなる。（田澤委員）

- ・ 働き方改革、子供たちの多様化、不登校生徒の増加など、先生方は大変である。
不登校問題については、学校だけでなく社会とのつながりという流れであり、市内では図書館や協働センターで出席扱いにできる教室をつくるなどの対策が進んでいる。また、子供をほめる教育が大事だと思うので、浜松市で開催している「ペアレントプログラム」なども利用してほしい。(松下議員)
- ・ 今回出た意見を踏まえて、今後、地域でできることを考えていきたい。(田澤委員)
- (2) 来年度の教育課程編成について
議長の指示により、大庭主幹から今年度、来年度の行事開催について説明があり、委員からは以下の発言があった。
 - ・ 学校に来る際にPTA証をつけることは定着しているのか。(大塚委員)
⇒行事の時には、つけてきてくれている。(大庭主幹)
- (3) 部活動地域展開について
議長の指示により、校長から部活動地域展開の現状について説明があり、委員からは以下の発言があった。
 - ・ 部活がない日が増え、その時間に過ごす場所があるのか心配である。(御室委員)
 - ・ 全中の目的の一つである競技人口を増やすということと、現在の抑制する方向とは相反していると感じる。部活を楽しみに登校している生徒がいること、部活で生徒同士や生徒と教師との人間関係を築くという面もあることを考えると難しい。(大塚委員)
 - ・ 「はまクル」に加盟する団体がどんどん出てくるような状況なのか。(田口委員)
⇒現在ある地域クラブが加盟するのが望ましいと言われている。また、複数校で合同チームを作って加盟することも考えられる。(池田校長)
 - ・ 地域で指導者を探すのは難しい。また、競技によって状況が違うという現実を考えると、子供目線で見た時にやりたいことができるのかという心配がある。体育振興会や民間クラブなどとの関係も考えると難しい問題である。(松下議員)
 - ・ 教員の働き方改革と言いながら、教員が参加できる制度になっている。場所の問題と人材の問題が大きな課題である。また、考え方が多様化し、それぞれの価値観や立場でいろいろな思いがあるため、割り切れず方針が出せないのだと思う。課題が多すぎる問題である。移行する側の学校も考えるが、受け取る側の地域も考えていかななくてはならない。(田澤委員)
 - ・ 保護者は現在の状況が把握できず、様々な話が流れている。決まったことはどのように知らされていくのか。(村上委員)
⇒決定したことは、教育委員会からさくら連絡網で配信されている。(池田校長)
 - ・ 協働センターは高齢者利用が多いので、中学生にも使ってほしい。現在は、クーリングスポットとして、誰でも利用できるようになっている。図書コーナーで勉強したり、体育館で部活をしたり、どんどん活用してほしい。(野嶋協働センター長)
 - ・ 地域クラブや合同チームでは、自分の学校の生徒以外の生徒を指導することになる。また、人事異動で指導する教員がいなくなった場合の対応も課題である。(田澤委員)

その他報告事項等

- ・ 大庭主幹より、次回会議は、令和7年11月21日(金)午前9時30分から大会議室で開催する旨の報告があった。
- ・ 高橋教頭より、夢育やらまいか意見書について報告があった。
- ・ 御室委員より、8月3日(日)のクリーン作戦について連絡があった。